



2022年8月9日

各 位

会 社 名 株式会社サン・ライフホールディング
代表者名 代表取締役社長 比企 武
(コード：7040 東証スタンダード)
問合せ先 常務取締役業務支援本部長 佐野 秀一
(TEL. 0463-22-1233)

(訂正)「2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

当社は、2022年2月9日に公表した「2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の記載内容の一部に訂正がありましたので、下記のとおりお知らせします。なお、訂正箇所には__を付して表示しております。

記

1. 訂正の内容

前第1四半期連結会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」を適用し収益を認識しておりますが、その適用におきまして、一部誤りがあることが判明したため訂正するものであります。

2. 訂正箇所

サマリー情報

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

添付資料

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

④その他事業(少額短期保険他)

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更)

(セグメント情報等)

3. 訂正内容

サマリー情報

【訂正前】

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2022年3月期第3四半期	8,157	8.8	222	—	311	—	166	—
2021年3月期第3四半期	7,494	△14.6	△188	—	△102	—	△270	—

【訂正後】

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2022年3月期第3四半期	8,159	8.9	223	—	311	—	166	—
2021年3月期第3四半期	7,494	△14.6	△188	—	△102	—	△270	—

添付資料

1. 当四半期決算に関する定性的情報

【訂正前】

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、引き続き新型コロナウイルス感染症蔓延の直接的、間接的な影響により、企業収益および個人消費は停滞しております。さらには11月に入りオミクロン株が世界的に広まっており、依然として経済状況は不透明な状態が続いております。主要事業において、飲食を伴うご宴席や集会の機会が敬遠されているものの、ご葬儀件数は堅調に増加し、売上高は前年同四半期比8.8%増の8,157百万円、営業利益は222百万円（前年同四半期は188百万円の営業損失）、経常利益は311百万円（前年同四半期は102百万円の経常損失）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は166百万円（前年同四半期は270百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

【訂正後】

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、引き続き新型コロナウイルス感染症蔓延の直接的、間接的な影響により、企業収益および個人消費は停滞しております。さらには11月に入りオミクロン株が世界的に広まっており、依然として経済状況は不透明な状態が続いております。主要事業において、飲食を伴うご宴席や集会の機会が敬遠されているものの、ご葬儀件数は堅調に増加し、売上高は前年同四半期比8.9%増の8,159百万円、営業利益は223百万円（前年同四半期は188百万円の営業損失）、経常利益は311百万円（前年同四半期は102百万円の経常損失）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は166百万円（前年同四半期は270百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

【訂正前】

④その他事業（少額短期保険他）

その他の事業では、各種手数料・管理収入、少額短期保険収入やハウスクリーニング事業の増加等があり、売上高は前年同四半期比30.2%増の368百万円、営業利益は当社事業用不動産の保守・管理コストの負担により、前年同四半期比58.4%減の6百万円となりました。

【訂正後】

④その他事業（少額短期保険他）

その他の事業では、各種手数料・管理収入、少額短期保険収入やハウスクリーニング事業の増加等があり、売上高は前年同四半期比30.8%増の369百万円、営業利益は当社事業用不動産の保守・管理コストの負担により、前年同四半期比49.8%減の8百万円となりました。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

【訂正前】

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
固定負債		
前払式特定取引前受金	26,787,973	26,662,997
引当金	49,587	—
退職給付に係る負債	157,956	159,516
その他	1,505,631	<u>1,556,657</u>
固定負債合計	28,501,149	28,379,171

【訂正後】

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
固定負債		
前払式特定取引前受金	26,787,973	26,662,997
引当金	49,587	<u>44,303</u>
退職給付に係る負債	157,956	159,516
その他	1,505,631	<u>1,512,353</u>
固定負債合計	28,501,149	28,379,171

【訂正前】

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	7,494,854	8,157,839
売上原価	6,136,960	6,340,150
売上総利益	1,357,893	1,817,689
販売費及び一般管理費	1,546,236	1,595,160
営業利益又は営業損失(△)	△188,342	222,529
営業外収益		
受取利息	9,968	10,482
受取配当金	13,390	7,093
前受金月掛中断収入	19,288	-
不動産賃貸収入	16,352	15,545
助成金収入	35,297	36,220
その他	22,116	26,197
営業外収益合計	116,413	95,539
営業外費用		
不動産賃貸費用	6,504	5,461
前受金復活損失引当金繰入額	23,534	-
その他	756	1,335
営業外費用合計	30,794	6,796
経常利益又は経常損失(△)	△102,723	311,272

【訂正後】

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	7,494,854	8,159,283
売上原価	6,136,960	6,340,150
売上総利益	1,357,893	1,819,133
販売費及び一般管理費	1,546,236	1,595,160
営業利益又は営業損失(△)	△188,342	223,972
営業外収益		
受取利息	9,968	10,482
受取配当金	13,390	7,093
前受金月掛中断収入	19,288	17,208
不動産賃貸収入	16,352	15,545
助成金収入	35,297	36,220
その他	22,116	26,197
営業外収益合計	116,413	112,747
営業外費用		
不動産賃貸費用	6,504	5,461
前受金復活損失引当金繰入額	23,534	18,651
その他	756	1,335
営業外費用合計	30,794	25,447
経常利益又は経常損失(△)	△102,723	311,272

【訂正前】

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、従来は有料老人ホームの入居一時金の一部に関して、入居時に収益を認識しておりましたが、合理的に算定した想定居住期間にわたり収益を認識することとしております。また、一部の連結子会社が取扱いをしている前払式特定取引前受金に関して、従来は一定期間経過後収益に計上するとともに、将来の復活に備えるため、過去の実績に基づく復活見込額を前受金復活損失引当金として計上しておりましたが、互助会会員の利用見込みが極めて低くなったと判断される時に収益に計上する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、利益剰余金の当期首残高は18,055千円減少しております。なお、当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

【訂正後】

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、従来は有料老人ホームの入居一時金の一部に関して、入居時に収益を認識しておりましたが、合理的に算定した想定居住期間にわたり収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、利益剰余金の当期首残高は18,055千円減少しております。なお、当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

【訂正前】

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ホテル事業	式典事業	介護事業	計				
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	524,113	5,802,939	1,462,274	7,789,327	368,511	8,157,839	—	8,157,839
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	52,959	25,536	512	79,009	25,006	104,016	△104,016	—
計	577,073	5,828,476	1,462,787	7,868,337	393,518	8,261,855	△104,016	8,157,839
セグメント利益又は 損失(△)	△182,043	1,185,532	△1,888	1,001,600	6,959	1,008,560	△786,030	222,529

【訂正後】

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ホテル事業	式典事業	介護事業	計				
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	524,113	5,802,939	1,462,274	7,789,327	<u>369,955</u>	<u>8,159,283</u>	—	<u>8,159,283</u>
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	52,959	25,536	512	79,009	25,006	104,016	△104,016	—
計	577,073	5,828,476	1,462,787	7,868,337	<u>394,962</u>	<u>8,263,299</u>	△104,016	<u>8,159,283</u>
セグメント利益又は 損失(△)	△182,043	1,185,532	△1,888	1,001,600	<u>8,402</u>	<u>1,010,003</u>	△786,030	<u>223,972</u>

以 上